

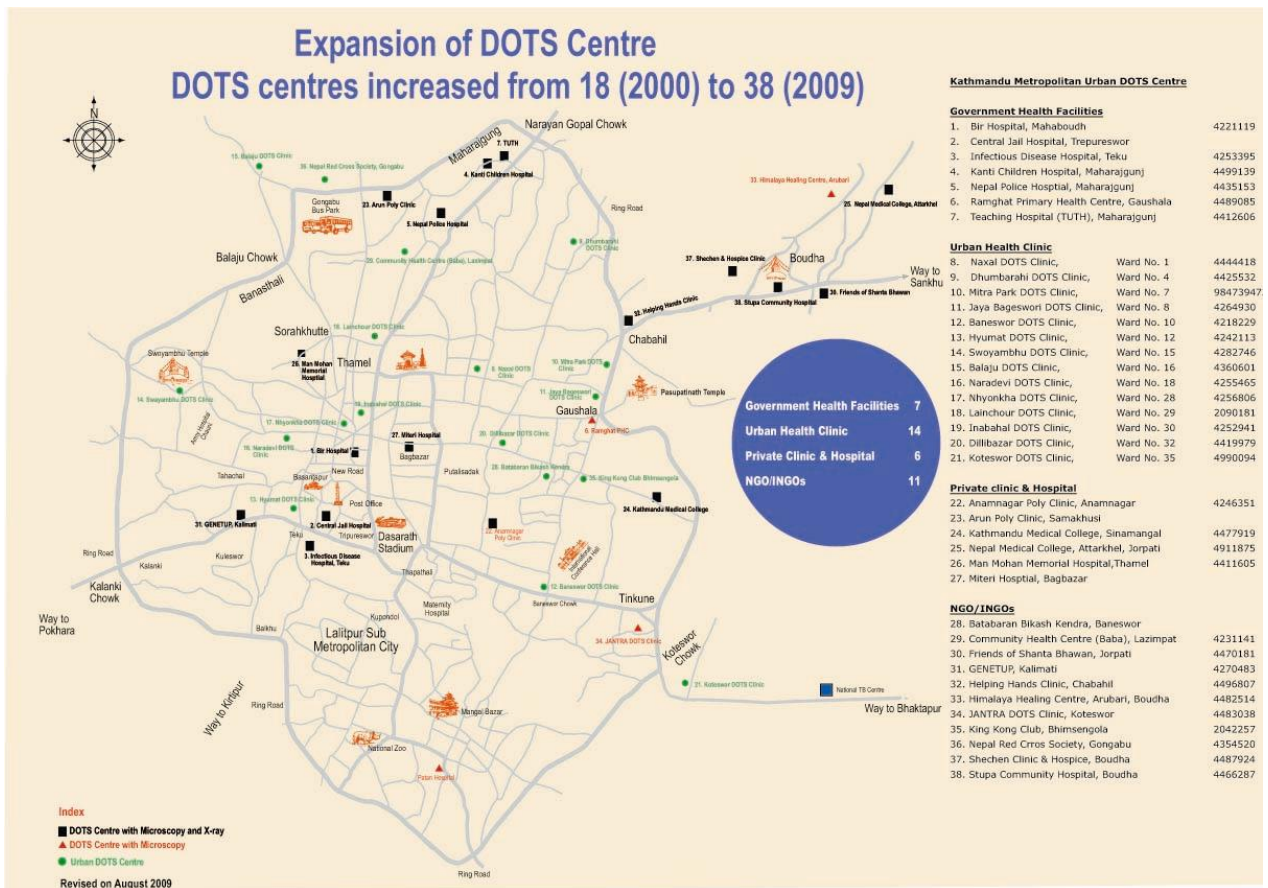
平成 22 年度 NGO 補助金
－事業報告書活動評価－

事業名 ネパール・カトマンズ市 (JANTRA) コミュニティ結核対策プロジェクト
英語名 JANTRACommunity TB Control Project in Kathmandu Metropolitan City,
Nepal

事業期間：2008 年 5 月-2011 年 3 月 (約 3 年間)



2011 年 3 月
公益財団法人 結核予防会
東京都千代田区三崎町 1-3



1. 【背景】

当会は、ネパールにおいて1987年～2005年まで国際協力機構(JICA)による「結核対策プロジェクト」、「地域の結核と肺の健康プロジェクト」の専門家としてネパールの結核対策に関わり、2001年にMDGsを達成する等の効果をあげた。しかしながら、その後も感染(173/対10万人、出所:2007 WHO推定)は多く、人口増加、季節労働者の出入りが著しいカトマンズにおいては感染者の約8%を占める。この現状をもとに当会が支援しているネパール現地NGO(以下 JANTRA)は、JICAプロジェクト後停滞したコミュニティ・ボランティアの活動を再開し、患者発見率、治癒率向上を目指し2008年5月より活動を開始した。

対象地区:カトマンズ市第35区、2009年より10区 人口およそ8万人

事業目標:ボランティアを巻き込んだ質の高いDOTSの実施

指 標:2011年3月までに

- ・プロジェクトサイトにおいて新規結核患者の治癒率が85%以上になる。
- ・プロジェクトサイトにおいて少なくとも120名/年が治療を受ける。

事業目標達成に向けて、以下の3つの活動を実施した。

- ①クリニックでのDOTSサービスの提供
- ②アドボカシー活動を通じたコミュニティ・エンパワーメント
- ③カトマンズにおける結核対策関係者の強化

2. 【活動の実績】

①質の良いDOTS サービスを提供する。

① - 1. 十分なクリニックの活動を実施する。

国立結核センター(NTC)と相談の上、セミスラムエリアが多く、クリニックへのアクセスが困難な人々が多いとみられる Kotesowre35 区に設立場所を決め、2008年7月よりDOTSクリニックを開設。結核診断、治療を行っている。2名の看護師は国立結核センターにて5日間の基礎、2日間の応用トレーニング受講済み。診療は、日曜～木曜の朝10時～17時までと金曜の朝10時～15時までとなっている。

① - 2 - 1. 新規登録ボランティアへの2日間トレーニング

JANTRAでは、患者発見や治療継続のために地域のボランティア(計58名)の協力を得ておこなっている。ボランティアはほぼ女性を中心として構成されている。当初は家族計画などすでに地域で活動していた Kotesowre35 区のボランティアを中心に活動を開始。ボランティアの数が増えた場合、必ずトレーニングを行い結核や治療に関する知識を身につけてもらっている。2009年7月より Baneshowre10 区もボランティア活動を開始。

① - 2 - 2. 既にトレーニングを受けたボランティアを対象とした復習トレーニング
すでに基礎トレーニングを受けたボランティアを対象に、補習として新しく更新された知識を伝えるトレーニングを実施。(2009年、20名を対象)

① - 3. プロジェクトサイトにおける顕微鏡センターの設置。

① - 3 - 1. 10区と35区のDOTSクリニックによる結核の疑いのある患者の喀痰検査の実施。

2009年7月より喀痰検査による診断を開始。国立結核センター(NTC)より顕微鏡を、区の保健所(DPHO)より器具(スライドなど)の提供を受けて開始。看護師の1名が5日間のトレーニングをNTCにて受講済み。

① - 3 - 2. プロジェクトサイトや近隣のDOTSセンターで治療を受けている患者の喀痰検査フォローアップの実施。

現在、治療を受けている患者の喀痰検査のフォローアップを実施することによって、再

度診断を行う。

② ACSM 活動を通じてコミュニティ・エンパワーメントを行う。

②-1-1. ボランティアによるコミュニティ訪問、新規患者発見。

地域には、地方から移住してきた人々や季節労働者が存在する。新たな住人は、地域の情報を入手しにくい場合が多く、結核を発病しても気がつかない可能性が高い。

よって、コミュニティ・ボランティアが地域を直接訪問することで、コミュニティへ情報を伝え、新規患者発見に貢献する。

②-1-2. プロジェクトサイトにおける結核の状況を共有するため、ボランティアの月例ミーティングを実施する。

月一度、ボランティアが集まり活動の状況を報告する。相談内容；コミュニティにおける患者について、薬の配布についてなど。Kotesowre35 区においては、ボランティア同士で基金を積み立て、生活に苦しい患者の交通費にするなどの支援を行っている。これらの支援についても月例ミーティングにて話し合われる。

=実績=

2008-2009 年 5 回 (Kotesowre のみ)

2009-2010 年 19 回 (Kotesowre、Baneshowre)

2010-2011 年 20 回 (Kotesowre、Baneshowre)

②-1-3,4. プロジェクトサイトにおいて世界結核デーに ACSM 活動を実施する。

3 月 24 日の世界結核デーにちなんで、Health Camp と称して、国立結核センター (NTC)、カトマンズ・メトロポリタン・シティ (KMC)、区の保健所 (DPHO)、ネパール結核予防会 (NATA/GENETUP) より関係者を集めて対象地域で無料診断、喀痰検査を実施。

②-2-1. カトマンズバレーにて実施されるネパール結核予防会 (NATA) の活動を支援する。

a. 学校を対象とした ACSM 活動の実施。高校生を対象とした啓発活動を行った。2009 年 2 回、2010 年 2 回。2008-9 年は 200 名、2009-10 年は 242 名、2010-11 年は 284 名を対象に実施。

b. 工場を対象とした ACSM 活動の実施。カーペット工場 (40 名) と女性組合 (50 名)、プラスチック工場 (35 名) と対象に啓発活動を行った。2009 年 4 回、2010 年 2 回実施した。

②-2-2. ネパール結核予防会の IEC (Information, Education, Communication) 資料作成支援。

2008 年に世界基金：ラウンド4のプログラムにおいて、プログラム計画、活動計画のワークショップにファシリテーターとして参加し、資料作成に助言を行った。

②-2-3. ACSM 活動に参加してもらうために他の NGO とミーティングを実施する。JANTRA の活動では、他の NGO と連携して結核に関する知識を広める活動を実施している。すでに活動が行われている NGO の対象コミュニティを通して、啓発活動を実施。Chimeki (栄養に関する支援を行う地域の NGO、100 名以上のボランティアがいる) の活動に結核に関する情報の提供も含めてもらえるよう協力を依頼し、2010 年 7 月より開始した。

③ 都市の結核対策ネットワーク強化

③-1. Coalition Against Tuberculosis (CAT) ミーティングの開催

JICA プロジェクト実施の際、NTC を中心とした関係者を集めて会議を実施し、進捗状況や問題を共有し今後の改善に役立てるための会議の開催。

2009 年 9 月に開催。以後は、2009 年 12 月、2010 年 11 月にほかの NTP パートナーである INGO (HERD) が開催。

2011 年は、世界基金ラウンド9のプログラムでカトマンズを中心としたプログラムが計画されているため、JANTRA が主催として実施する予定。

③-2. NTC と DPHO、KMC とともにカトマンズ市の結核対策管理指針の作成のためのミーティングを行う。

カトマンズ市内の結核対策管理指針の作成のためのミーティングが DPHO 主催で開かれた。2010 年 10 月～11 月にかけて 1 週間参加した。

③-3. 四半期モニタリング・評価ミーティングの支援。

DPHO が実施している四半期ごと (年 3 回) のミーティングでカトマンズバレー108 箇所のクリニックから患者データが届き、集計される。6 日間にわたって行われる。JANTRA はカトマンズ市内のデータ (38 箇所の DOTS センター) については、レポートの記入方法、データの分析方法についてアドバイスを行っている。

2009 年より実施。2009 年 8 月、12 月、2010 年 4 月、8 月、12 月。

3. 【期待する成果とその達成度】

成果：①クリニックでの十分なDOTSサービスの提供

指標 1：活動対象地域における治療結果

カトマンズ市内では、通常クリニックの診療時間は朝 10 時～17 時までとなっている。しかしながら、職場や学校も 10 時に始まることが多いため、NTC と相談の上 JANTRA では、毎日（日～金曜日まで）朝 8 時よりクリニックを開き、患者の治療に貢献している。また、薬や薬品の管理が良く衛生的であり、患者カードの記入の仕方など正確であるため、2009 年には NTC よりカトマンズ市内にある 38 箇所のクリニックの中で最もよいクリニック活動の一つに選ばれている。

治療した患者数：2008 年 7 月～2009 年 7 月 203 名
：2009 年 7 月～2010 年 7 月 197 名
(JANTRA が活動を開始する前の Kotesowre での患者数実績は 63 名。)

指標 2：コミュニティ・ボランティアが結核の知識を維持する

新規登録ボランティアに対し 2 日間のトレーニングを実施。結核の知識、症状、治療についての基礎的な知識をボランティアに得てもらった。知識の習得度は、ボランティアが新規患者発見のためにコミュニティ訪問時に使っているチェックリストを使って確認し、みな一定水準に達している。

新規登録ボランティアの数は以下のとおり。

2008 年－16 人 Koteshowre

2009 年－22 人 Baneshowre

2010 年－新規なし

補習のトレーニングに関しては、1 日 Koteshowre と Baneshowre 合わせて 20 名を対象に実施した。トレーニングの内容は、例えば 2008 年 11 月から結核治療のための服薬が 8 カ月間必要なものから 6 カ月間の薬に変わった。カトマンズでは 2009 年 3 月より実施された。これらは、ボランティアのミーティングによって伝えられた。また、治療の環境の変化（たとえば、近隣に顕微鏡センターに設置された等）についてもボランティアミーティングで共有されている。

なお、ボランティアの識字率はおよそ 90%。残りの 10% の読み書きができない人々についても口頭で知識の確認を行っている。

指標 3：ボランティアや 35 区、10 区から受けた結核疑い者の数

ボランティアのコミュニティでの活動より結核の疑いのある人々をクリニックへ検査するために送った。2 年間の実績で 50 名。

指標 4：プロジェクトサイトより新規喀痰検査陽性患者の数

喀痰検査については、2009年7月より顕微鏡センターを実施。

実績については、2009-2010年の実績では101件の検査をおこなった。うち、3件が新規陽性患者であった。

指標5：プロジェクトサイトより喀痰のフォローアップを行った数

2009-2010年の実績では222件を検査した。うち、4%（8件）が陽性であった。

カトマンズ市からのフォローアップ；17件

MDR 1件→NTCへ照会、TB/HIV 1件→JANTRAにて治療中。

成果②アドボカシー活動を通じたコミュニティ・エンパワーメント

指標1：新規患者発見の数の増加

ボランティアがコミュニティ(含セミスラム)訪問を行い、新規患者発見を行った。計3回実施(2009年12月、2010年3月、2011年3月)。1560件訪問、うち4件の結核疑いのケースを発見。

Koteshowre (35区)では、新規患者の数が2007-8年22名だったところ、2008-9年では35名、2009-10年では34名と増加している。

また、2009年7月より活動地域として加えたBeneshowre(10区)では、2008-9年には24名だったところ、2009-10年には39名に増加した。

指標2：コミュニティ・ボランティアによってアドバイスを受ける患者の数が増える。JANTRAの活動が始まる前は、長期にわたる患者の治療についてボランティアが支援することはなかった。Koteshowre(35区)では9名の患者、Beneshowre(10区)では3名の患者がボランティアによってサポートを受けている。

指標3：工場や学校への啓発活動の数

学校を対象としたACSM活動の実施。高校生を対象とした啓発活動を行った。

2009年2回、2010年2回。2008-9年は200名、2009-10年は242名、2010-11年は284名を対象に実施。(平均年間80名)。

工場を対象としたACSM活動の実施。カーペット工場(40名)と女性組合(50名)、プラスチック工場(35名)と対象に啓発活動を行った。2009年4回、2010年2回実施した。

今後は、飲料水の会社ペプシを対象とし啓発活動を行うよう働き掛けを行っている。ネパールにおいてもペプシは大規模な会社であり、多くの人々へ知識を啓発することができる。

指標 4 : コミュニティにおける活動実施の数。

コミュニティ・ボランティアによる世帯訪問で、1560件訪問。うち2件の治療脱落者、8件の治療遅延をみつけ、治療再開へつなげた。

指標 5 : 世界結核デーにおけるACSM活動の実施

3月24日の世界結核デーにちなんで、**Health Camp** と称して、国立結核センター (NTC)、カトマンズ・メトロポリタン・シティ (KMC)、区の保健所 (DPHO)、ネパール結核予防会 (NATA/GENETUP) より関係者を集めて対象地域で無料診断、喀痰検査を実施。

2009年 3月21日 152名検査

2010年 3月 200名検査

2011年 3月 (予算によって見合わせの可能性あり)

2010年保健省が主催する結核デーのイベントにて各関係者にこれまでの実績をもとにプレゼンテーションを実施。(写真参照)

指標 6 : 他のNGOとの四半期ごとのミーティングの実施。

Chimeki (栄養に関する支援を行う地域のNGO、100名以上のボランティアがいる) の活動に結核に関する情報の提供も含めてもらえるよう協力を依頼。

2010年の7月にChimekiのボランティアに対して結核に対する情報を伝え、その後Kotesowreを含む12ヶ所の地域で彼らの活動が行われた際に結核の情報を伝えた。そのうちJANTRAからはスタッフが2回同行し活動をともに行った。

成果③カトマンズにおける結核対策関係者の強化

指標 1 . 他の関係者と四半期ごとにミーティングを実施する。

NTCを中心とした関係者ミーティングは、2009年9月に一度実施している。しかし、その後は、他のNGOが中心となって2回開催されたためにJANTRAが中心となっては開催しなかった。

指標 2 . NTC、DPHO、KMCと結核対策管理指針作成にあたり、四半期ごとにミーティングを行う。

カトマンズ市内の結核対策管理指針作成のためのミーティングがDPHO主催で開かれた。期間は2010年10月～11月にかけて1週間。

出席者は以下のとおり。

- ・ Helping Hands (国際NGO)
- ・ International Children(国際NGO)

- ・ Janamaitri 病院(政府系)
- ・ TUTH 病院(政府系)
- ・ Baneshowre(公的クリニック)
- ・ Baraju(公的クリニック)

JANTRA は、2011 年 2 月に世界基金ラウンド 9 のサブ・レシピエントとして選ばれた。今後の活動にカトマンズ市内の DOTS 活動のモニタリング・スーパービジョンを行う予定。活動は 2010 年 11 月の活動開始とする。

指標 3. 四半期ごとの評価ミーティングにおいて NTC、DPHO、KMC とともに十分なクリニック活動のフィードバックを行う。

JANTRA の活動を開始し、クリニックの活動が順調に認められて以来、DPHO にて行われた四半期（年 3 回）ごとのミーティングではアドバイザー業務を行っており、市内の患者レポートの改善に貢献している。今後もサポートを継続していく予定。

4. 【評価 5 項目による評価結果】

4-1.有効性：A

A:事業目的は達成された

B:事業目的は一部達成された

C:事業目的はほとんど達成されていない

プロジェクト目標：「ボランティアを巻き込んだ質の高いDOTSが実施される」

指 標：2011年 3月までに

- ・プロジェクトサイトにおいて新規結核患者の治癒率が85%以上になる。

- ・プロジェクトサイトにおいて少なくとも120名/年が治療を受ける。

＝指標による達成結果＝

2008-2009年 治療成功率 90%

2009-2010年 治療成功率 83%

→86.5%達成

2008-2009年 患者治療数 203名

2009-2010年 患者治療数 197名

→平均 200 名が治療を受けた。目標を達成。

プロジェクト目標は以下 3 つの成果、①クリニックでの十分なDOTSサービスの提供、②アドボカシー活動を通じたコミュニティ・エンパワーメント、③カトマンズにおける結核対策関係者の強化によって引き起こされた。また、成果も指標による基準に達して

いる。

また、外部条件として活動に不可欠である NTC や DPHO など関係者からの協力を得て活動が継続できた。

4-2.効率性：A

事業へのインプットが想定された効果を生んでいるか

A:事業は効率良く行われた

B:効率性はやや落ちる

C:効率が悪かった

投入は、JANATRA の予算書および活動計画に基づき JATA 側で審査の上行った。人件費においても JATA と相談の上決定している。また、機材、経費の支出については、一定額以上の物を購入する場合、合い見積もりをとりより安価なものを購入するなど内部規定で決めて実施している。低予算、少人数体制でありつつもアウトプットを達成させている。

4-3.インパクト：B

事業の目的が達成されたことにより上位目標が達成されたか、想定以上の波及効果があったか

A：住民の意識改革等高いインパクトが見られた。

B:事業目標自体は達成されたが、上位目的への影響はない

C:負の影響がみられた

上位目標：2015 年までにカトマンズの結核死者数が減少する達成見込みを検討した。JANTRA の活動地域は限られているため、カトマンズ市内の DOTS センターのモデルケースとして活動を行っている。達成の可能性については以下の状況から判断した。

1.診断数の増加。

2.JANTRA の活動が開始されて以来、Koteshowre および Baneshowre の 2 つの公的クリニックの全体が衛生的に管理されるようになり、患者管理票の記入も改善された。

3.活動が停滞していた DPHO の担当者が問題のある DOTS センターへ巡回指導を開始した。

4.2009 年には、NTC からの依頼を受けて、東部からの保健スタッフが約 40 名視察に来た他、ブータンからボランティアの視察があり、活動の参考とされた。

5.2011 年 2 月に世界基金ラウンド 9 のサブ・レシピエントに選ばれ、以後 5 年間はカトマンズバレーにおいて ACSM 活動を行うこととなった。

以上の状況から、上位目標を達成する可能性を含んでいるが、現時点においては、ACSM 活動のみでは達成に直接貢献できるか判断が難しい。

4-4. 自立発展性：A

撤退した後も地域住民等の主体的な協力により事業の効果がみられるか。

A：維持管理体制・活動の持続的運営体制が整っており、自立発展性が期待できる。

B：体制の確立、資金の目処等が十分ではないが、当面は継続可能

C：継続性・自立発展性は低い

プロジェクトは、各クリニックスタッフへの活動を促進している他、DPHO の結核対策スタッフが活動に積極的になったため、持続する見込みがある。また、JANTRA の活動は世界基金とともに継続していくため JANTRA の活動がモデルとなり他ケースへ波及し、継続していけるよう今後も活動を継続する。

4-5. 妥当性 A

事業目的が上位目的の達成に有効であったか、受入国の政策の影響を及ぼしたか。

A：事業の妥当性は高い

B：事業の妥当性は高くはないが認められる

C：事業は妥当性を欠いていた

ネパール保健省は Long term Plan2005-2015 と National Strategic Plan2010-2015 で言及されている都市の結核対策に即して活動が行われているほか、NTC より活動の前向きな支援を受け行われている。

また日本側の方針についても、「ストップ結核ジャパンアクションプラン」にも則している。

このプロジェクトはコミュニティ・ボランティアの住人からの信頼を得て成り立っている。住人からのニーズも反映されやすい状況にある。

その他/社会的影響 (ジェンダー、環境)、住民参加等

コミュニティ・ボランティアは、女性を中心として成り立っている。女性間のネットワークを通して、家族へと情報を広めることができる。

また、患者であった人々が新たにボランティアに参加するケースも見られた。

5. 【結論】

5-1. JICA プロジェクト終了後、停滞していたボランティア活動を再開できた。カトマ

ンズ市内の DOTS 活動のモデルケースとなる活動は行われつつあると言える。

5-2.成果別結論

①クリニックでの十分な DOTS サービスの提供

対象地域の結核対策活動に貢献できている。NTC やほかの活動団体からも認められ、活動の質も良い。都市の結核対策 (DOTS) のモデルケースとして他クリニックへの波及が期待される。

②アドボカシー活動を通じたコミュニティ・エンパワーメント

ボランティアの活動は充実したものになり、活動も拡大している。地域を巻き込んだ活動により、地方からの移住者などにアクセスしやすいものになっている。工場や学校へ啓発を広め、幅広く情報を伝えることが可能になっている。今後も幅広く他の NGO 団体との連携も強めていきたい。

③カトマンズにおける結核対策関係者の強化

今回のプロジェクトでは、NTC、DPHO との関係が強化された他、多くの関係者によって活動が共有され始めた。新たに始まった世界基金の活動では、カトマンズ市内の DOTS センターの活動のモニタリング、スーパービジョン(活動管理)が含まれている。2011 年 4 月以降の活動については、関係者間の強化は広範囲かつ具体的な状況をもと目標達成することを目指す。

6.【提言と教訓】

6-1.提言

- ・過去 3 年間の活動のほとんどが世界基金の活動にシフトされていくが、世界基金の活動だけでは補えない活動については、予防会の資金にて補完的に行う必要がある。
- ・JANTRA は 3 年間という短期間の活動の成果が評価され、世界基金のサブ・レシピエントに選ばれた。信頼性のあるクリニック活動やコミュニティ・ボランティアや通じた地域への貢献をもとに、多様な関係者へとの連携が成功したためである。今後カトマンズバレー全体へと活動地域を拡大するにあたり、JANTRA のモデルケースを活用することが期待される。
- ・JANTRA の DOTS 活動がカトマンズ市内のモデルケースとなった場合でも、政府系の大きな病院、私立の病院などさまざまな関係者との連携によって都市の結核対策の改善を行う必要がある。これは国立結核センターやカトマンズ・メトロポリタン・シティ、区の保健所からの支援が不可欠である。2011 年度以降は、モニタリング活動を強化していくことでカトマンズ市全体の改善につなげていくことを目指す。

6-2.教訓

- ・次期、世界基金の活動開始においてレシピエントである NTC は 2011 年 2 月に正式にサブ・レシピエントを決定した。しかしながら、活動は昨年 11 月にさかのぼり開始したとして活動および予算を執行しなければならない（初年度活動終了はネパール予算年度 7 月中旬）。政府の進め方によって活動の質が大きく左右される可能性があることが懸念される。
- ・ネパールでは、年間を通じて停電、断水があり、特に冬の次期においては一日 10 時間以上の停電がある。JANTRA には発電機があるものの、活動を行う組織や施設で補てんできない場合、活動を進めるにあたって影響を受ける可能性がある。
- ・ネパールでは、よりよい待遇を求めて転職するケースがみられる。例えば、JANTRA での活動に貢献した看護師が 3 月末で離職する。今後、現在の活動の質を保つために新たな人材の教育が課題となる。

以上